

高齢女性及びその関係者のウェルビーイングを高める  
メイクサービス実現に向けての検討  
—メイクサービスと介護福祉士の実践的専門性を活かした実証と分析から—

【 要 旨 】

ソーシャル・イノベーション研究科  
ソーシャル・イノベーション専攻  
2025年3月修了  
張 素梅

## 【要 旨】

本研究は、高齢化社会における高齢女性及びその関係者のウェルビーイングを高めることを目指し、メイクサービスの提供を通じて幸福度の高い社会の実現を図る。特に、介護施設や、地域の高齢女性を対象としたメイクサービスをビジネス化し、介護福祉事業におけるソーシャル・イノベーションを促進することを目的とする。

日本における高齢女性へのメイクサービスの現状に関しては、高齢者に与える変化の有効性を検証し、介入研究数も多く存在している。しかし、このようなプログラムを実際に取り入れる地域や施設などは、まだ少数である。また、高齢者向けのメイクサービスをビジネスとして実現している事例も少ない。本研究では、筆者の介護福祉士と美容業界での経験を活かし、実際にビジネス化を検討していくにあたって必要となる効果的なメイクサービスのプロセスを検証した。

メイクサービスのプロセス確立のために、介護施設で実施プロセス方法を改善させながら、3回メイクサービスを実施した。それぞれ、①高齢女性に対してのメイクサービスの提供、②高齢女性に対して介護職員も一緒にメイクサービスの提供、③高齢女性が主体的にメイクを行う時間を設けての提供を行なった。

確立したメイクサービスのプロセス検証を行うために、別の介護施設で高齢女性向けのメイクサービスを2回提供した。検証を通じて、高齢女性向けのメイクサービスの効果を最大化にするためには、7つの取り入れるべき要素があると特定した。7つの要素とは、参加利用者への尊重を重視したコミュニケーション、リハビリテーション目的の機能訓練、自立支援の促進、待機時間の活用、五感の活用、参加利用者同士相互の称賛、介護職員と実施者による肯定的な評価である。

メイクサービスのプロセス検証を行なった後、高齢女性向けメイクサービスの事業化をより具体的に検討するために、地域の健康高齢者に対するメイクサービスのニーズ調査を実施した。ニーズ調査からは、メイクや肌などのお手入れに関心はあるが、心理的な障壁から購買などの行動に移せない高齢女性が多いことが明らかになった。

本研究を通じて、高齢女性向けのメイクサービスを事業化するにあたって、ウェルビーイングを高めることに効果的なメイクサービスのプロセスを確立し、事業化に向けての方向性を具体化することができた。これらの成果は、高齢女性にとってメイクサービスが単なる外見の変化にとどまらず、自分らしさを見つけ、日常の喜び、達成感、満足感等を得るうえで重要な役割を果たすことを明らかにした。今後、メイクサービスを通じた新たな介護ケアを提案し、事業化を通じてより多くの高齢女性及びその関係者が笑顔で過ごせる未来の実現を目指したい。